

大学院進学感想

院進 A 班 王凡
2019 年 11 月 7 日

私は大学院進学 A クラスの王凡です。後輩の皆さんへアドバイスとして、私が来日してから大学院に受かるまでの経験を振り返り、これから述べる事が後輩の皆さんに役立つことを祈る一方、それを自分の進学経験の総括とさせていただきます。

私は、2018 年 4 月に亜細亜友之会外語学院に入学し、プレースメントテストの成績で大学院進学 A クラス(大学院進学を目的とする学生が入るクラスで、A と B クラスに分かれる)に振り分けられました。来日して間もない私には、大学院進学に関する情報をほとんど知りませんでした。大学院への進学を決めていたにもかかわらず、何をいかに始めれば良いかもわかりませんでした。幸いなことに、学校の先生による大学院進学説明会を通して、大学院の進学事情について少し情報収集ができました。また、休みの時間で担任先生によるご指導を受け、自分の専攻を決めることができました。さらに、塾の授業で専門知識のキャッチアップもできました。専門知識を勉強する過程で、自分の研究の方向性も次第はつきりと見えてきて、最終的に研究計画書を完成する事ができました。

2018 年の冬、私は早稲田大学、横浜国立大学及び明治大学の大学院入試に挑みましたが、残念なことにいずれも不合格になってしまいました。結果を知った私はすっかり自信を無くしました。それまで頑張っていたことがすべて否定されたような感覚を味わい、自分のどこがダメだったのかを知る事さえできないのが本当に悔しかったです(日本で進学する場合、大学から結果しか知らされず、成績の公表がない)。一時、今後いかに続けて行けば良いか、経営学の勉強を続けて良いか、専攻を変えれば受かるのではないかと迷走し始めました。しかし、家族の応援と学校の先生からの励ましが私に勇気をくれました。両親が毎回ビデオ通話の最後、「君なら必ずできる」と温かい言葉をくれました。私を応援して下さいたくさんの人達を失望させないため、私は最後まで頑張れたと思います。

2019 年に入り、私は再度大学院進学への挑戦を始めました。過去の失敗の経験を踏まえ、いくつかの注意点に気づき、それらを自分なりにまとめました。例えば、経営学の試験は大きく筆記試験と面接に分かれます。ほとんどの大学の試験では筆記試験に合格した者しか面接へ進めません。ただし、これは絶対的ではありません。筆記試験と面接の両方に参加させ、総合得点の高い学生から取っていく大学も存在します。筆記試験に関しては、教科書通りの完璧な回答を埋めるだけでは必ずしも合格できるわけではありません。私は、学生自身の考えが回答に反映されているかというところも重要視され、合格を左右すると思います。面接においては、自分の考えをはっきり伝えられるかがポイントです。留学生にとって、流暢に話せることができるかは重要ではありますが、自分の考えをうまく相手に伝えることが大切です。また、質問の内容を理解しないまま回答をするのはやめましょう。そういうときは、質問の内容をもう一度確認してから答えましょう。私の場合、質問の内容を理解しましたが、どの角度から回答したら良いかがわからず、教授に、もう一度質問をおっしゃって頂くようお願いしました。最後の結果にこの逆質問がどれほど役立ったのかは定かではありませんが、もしかしたら私の真面目な態度がプラスになったのではないかと思います。学問の世界では真剣さが大事です。教授にとっても、学生にとっても同じことが言えると思います。

2019 年 9 月に、私は横浜国立大学の大学院に合格する事ができました。進学の過程を振り返り、先生方のご指導と家族の支えがなければ到底実現できないことだと実感しました。亜細亜友之会外語学院に在学中、私は自分の考えを他人に伝え、他人といかにコミュニケーションをとるかを学びました。性格もより朗らかになり、たくさんの友達ができました。ここで学校の先生方に感謝を申し上げたいです。本当にありがとうございました。